

「英語コミュニケーション能力育成の中長期的デザイン」 私たちが教える生徒は、卒業時に英語で何ができたらいいのだろうか？

静岡大学名誉教授 三浦 孝

<http://homepage3.nifty.com/tutormiura>

前提 1. コミュニケーションとは何か

音声・文字・表情や身振りをを用いて、自分や他人に対して、情報や意向・考えや感情を伝達すること。

前提 2. コミュニケーション能力とは何か

Canale and Swain による communicative competence の定義

名称	定義
文法能力	発音・スペリング・単語・語順・句・節・文・文型・語形変化など、英語の形(form)を理解し操作する能力。
談話能力	文を越えたレベルで、意味を通じさせるために、首尾一貫した文脈を構成したり、そうした文脈を理解する能力。
社会言語能力	言語が使われる社会的文脈を理解し、その場にふさわしい言い方で表現したり理解する能力。場面における発話の適切さを判断する能力。
方略能力	言語能力の不足・疲労・緊張などを補い、コミュニケーション上遭遇する障壁を乗り越えて、言語的・非言語的方略を駆使してコミュニケーションを成立させる能力。

前提 3. Communicative Language Teaching の指導原理は何か

1. 言語形式（つまり文法・語法・発音等）と同等に、意味を重視する。
2. 言語は、特定の場面で、何らかの意図(function)のために発せられる。したがって言語授業では場面と意図を伴う形で、function を使いこなす力の育成を重視する。
3. 学習者は、受身的に言語知識を吸収するのではなく、聞いたり読んだりした言語データから、積極的に言語ルールの仮説を構築しようとする。そして、構築した言語仮説を用いて文を生成し、自分の仮説を検証しようとする。
4. 学習者の犯すエラーは、こうした仮説検証過程の顕れであり、前向きに受け止めるべきである。
5. 以上を総合して、言語は意味ある場面でそれを実際に使用することを通じて、最も効果的に習得される。そのため、授業では生徒が間違いを恐れずに目的を持って言語を実際に使用する活動が中心となるべきである。

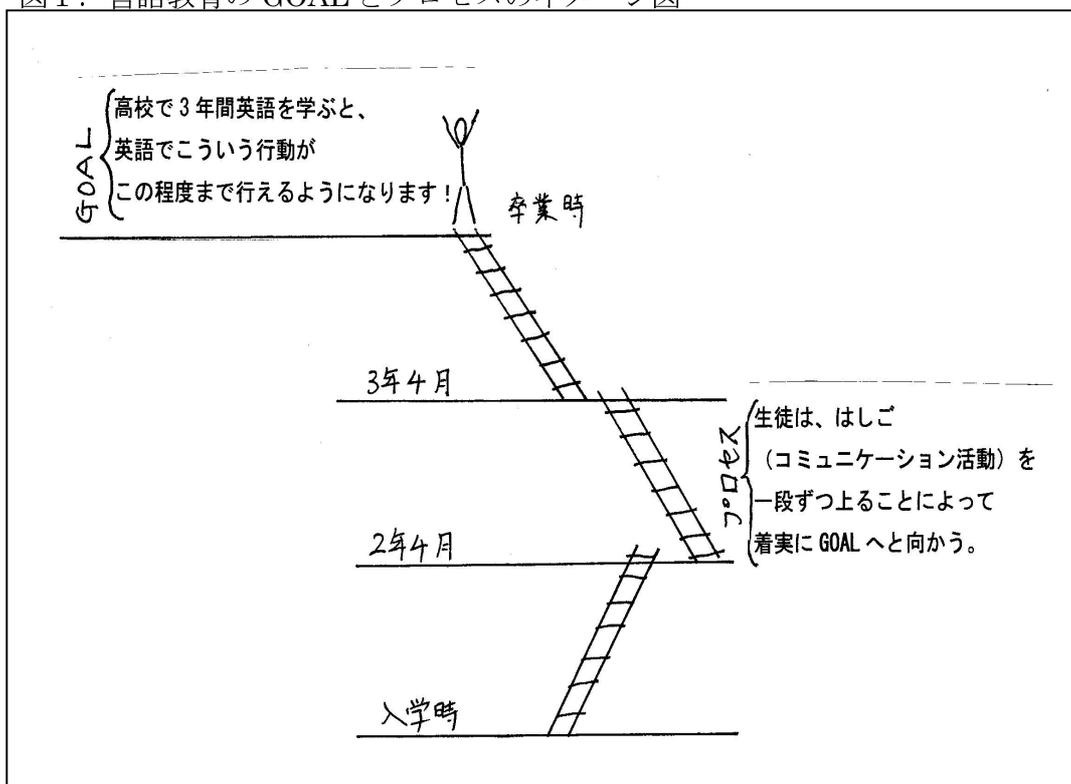
前提 4. 新学習指導要領「英語の授業は英語で行うことを原則とする」の正しい解釈は？

- (1) 生徒が間違いを恐れずに目的を持って言語を実際に使用する活動を授業の中心とする。
- (2) 「教師が説明し、生徒が吸収する」授業から、「生徒が自ら活動することを通じて学ぶ」授業へ、の転換。

前提のまとめ：授業の中核をなす「言語活動」と、それが目指す「高校最終ゴール」を明確にデザインできるかどうか、新学習指導要領の命運を左右する。

新しい授業の展望。言語活動中心の授業では、「行動力ゴール」と「プロセス」が鍵となる

図1. 言語教育の GOAL とプロセスのイメージ図



課題 1. 「高校で3か年間学んだら、英語でどういう行動がどの程度できるようになるのか？」の具体的行動力 GOAL を持つこと

<平成 21 年 12 月 文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」>

第2節外国語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。



「コミュニケーション英語Ⅰ」

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

私たちが教える生徒は、卒業時に英語で何ができるようになってきているのだろうか？

課題 2 GOAL へ達するためのプロセス（言語活動の有機的配列）をデザインする

GOAL 達成には、日本の学校現場で成立する、使い勝手の良い言語活動の豊富なバラエティの有機的配列が必要である。

<平成 21 年 12 月 文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」>

2 内容

(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

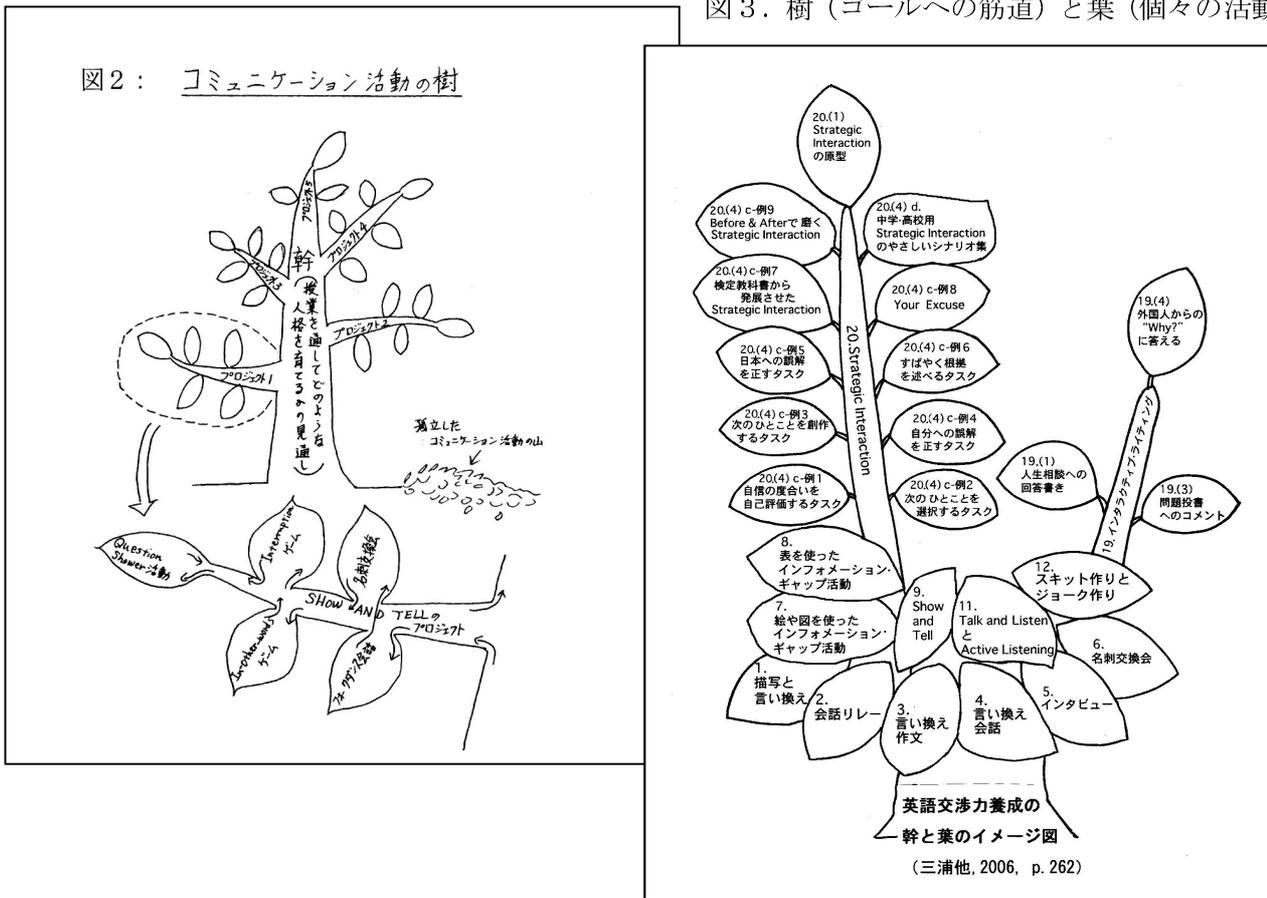
エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

具体的に、授業の「言語活動」で何をやったらよいのだろうか？

「言語活動」が新学習指導要領の命運を担っているはずだが

課題 3. 世間で評判の言語活動をいくら集めても、最終ゴールを持たなければ樹にはならない。

図 3. 樹 (ゴールへの筋道) と葉 (個々の活動)



解決策. これからの日本人が英語使用場面で最も遭遇しそうな 4 大行動力を GOAL とする。

第 1 の GOAL—英語 activity 運営力

- 英語授業で用いられる代表的コミュニケーション活動を英語で運営できる行動力
- この入門を英語学習初期 (中学) に行い、それを根幹としてその上に次の 3 行動力の幹を伸ばす
- guided composition、guided conversation、インタビュー、paraphrasing、4-hint quizzes、名刺交換会、picture description、picture differences、show and tell など (説明は表 1 を参照)
- 生徒が English speaker として授業に参加できる行動力の育成である。

第 2 の GOAL—英語プレゼンテーション力

- 情報や情景、出来事について英語で相手にわかりやすく客観的に伝える力
- またそうした発表を聞き手としてよく理解するために、聞き返しや関連質問をする力
- 最終的には学会・会議・商談などにおいて、聴衆が求める情報を整理された一定時間の番組

として、口頭発表し聴衆との間で質疑応答を行う力。

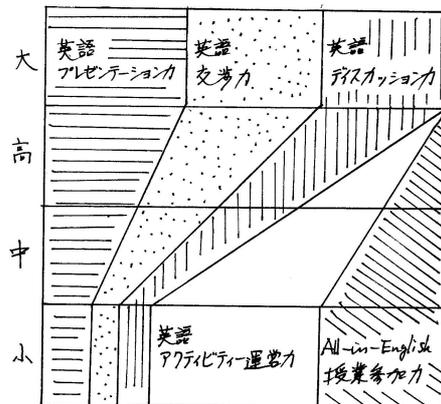
第 3 の GOAL－英語交渉力

- 対人関係調整の英語力
- 他者と友好的関係を切り拓く・個人としての自分を主張・相手の都合に耳を傾けた上で協調を図る力
- 葛藤をも含んだ対人交渉場面において、相手方の事情・利害・主張を聞き取って理解し、こちら側の事情・利害・意見を冷静にわかりやすく相手にわからせ、自分を生かし相手も生かす合意点に達するために交渉する力。

第 4 の GOAL－英語ディスカッション力と critical thinking

- テーマについて意見を考え、表明し、根拠づけを行う力
- 相手の意見の根拠を尋ねたり、問題点を指摘する力。
- mind と heart の区別に立ち、感情的にならずにより高次の考えに到達すべく双方が協力する力

図 4. 4 つの行動力の長期的積み上げ



この方式のメリット

- ① GOAL が activity に直結しているので、目指す GOAL とそこに至るプロセスがはっきり見える。アクティビティ中心の授業がしやすい。
- ② 生徒の英語力のみを授業の柱としておらず、複合的な能力を動員しているため、英語力差の大きいクラスでも一緒に教えられ、また相互に助け合える。
- ③ 人に発表し、わかり合い、論じ合う授業で、生徒はまず英語でコミュニケーションすることの楽しさを味わい、それが「もっと良く理解し・伝えたい」という言語 form の学習動機につながる。こうして生まれる学習動機の強さは、抽象的な「学力」を追う学習の比ではない。

英語アクティビティ参加力の育成デザイン（各活動の詳細な説明は、三浦ほか(2006)を参照）

	活動名	活動の説明	育てる力
1	guided composition	習った英文の一部を変えて、自分のオリジナルなメッセージを作文する。提出作品を集め、名作集（あるいは全作品集）にして生徒に還元する。	既習文を加工して自分を表現する。 他の生徒の作品から学ぶ。
2	guided conversation	ペアで、習った会話文の一部を変えて、オリジナルな会話を創作し暗唱、実演する。優秀な実演をみんなで鑑賞する。	既習文を加工して自分達を表現する。 他の生徒の作品から学ぶ。 クラスの前で実演する。
3	インタビュー	クラス全員で一斉に、各自が与えられた英語質問を暗記し、クラス中を歩き回って一定時間内に多くのクラスメートに質問し、どのような答があったかを事後に振り返って英語でレポートを書く。尋ねる質問は、生徒個人に考えさせてもよい。	英語の質問をきっかけにして、大勢のクラスメートに声をかけ、対話する。 あいずちなど駆使し、良い聞き手となる。 オリジナルな質問を作って尋ねる。 質問結果を英語でレポートに書く。
4	4-hint quizzes	ペアで、一方の生徒のみが黒板を見ることができ、他方は黒板が見えない位置に座る。黒板に提示された人物や物品の絵を、①animals, people, plants, places などのカテゴリーの描写→②color, size, shape の描写→③具体的な様子の描写、の順で4～5文で描写して、相手に何のことがかを当てさせる。	状況や事物を相手にわかるように描写する。 相手を理解するために聞き返し表現を駆使する。 ヒントを聞いて、何のことがかを当てる。 日本語に頼らなくても互いに理解できることを実感する。
5	paraphrasing	ペアで、一方の生徒のみが、黒板を見ることができ、他方は黒板が見えない位置に座る。黒板に提示された、英語でどう言うかわからない語を、自分たちの習った範囲内の英語で易しく言い換えて、相手にわからせる。	同上
6	名刺交換会	<準備作業>各自、自分の英語名刺を作り、10枚ほどコピーしてくる。	自作の英語名刺をきっかけにして、大勢のクラスメートに声

		<p><本番で>クラス全員で一斉に、あまり言葉を交わしたことの無いクラスメートを優先して、互いに名刺を交換し、名刺に書かれた英語を説明する。名刺に書く英語は、</p> <p>初回：中央に自分の似顔絵、その左に自分の呼ばれたい呼称、名刺の左上に自分の部活動、右上に好きな食物、左下に好きな活動、右下に自分の関心事を書く。</p> <p>2回目：中央に自分の似顔絵、その左に自分の呼ばれたい名前、</p> <p>名刺の4角に自分が人と違うユニークな点を書く。</p> <p><事後に>もらった名刺をレポート用紙に貼り、その横にその人物について1行ずつ英語で感想を書き、提出。</p>	<p>をかけ、相互理解を深める。</p> <p>あいずちなど駆使し、良い聞き手となる。</p> <p>自発的に相手に関連質問をする。</p> <p>自分自身の positive なユニークさを自覚する。他者のユニークさを知る。</p> <p>感想を英語でレポートに書く。</p>
7	picture description	<p>クラス全員に、ある情景を描いた絵を見せ（いろいろに解釈できる絵）、各自が自由に想像を働かせて解釈し、その絵の中に起こっている出来事を英文で描写する。事後に英文を集め、教師が名作集にして生徒に還元する。</p>	<p>情景や道順を、相手に正確に伝える。</p> <p>他者の書いた情景描写を理解し、そこから学ぶ。</p>
8	picture differences	<p>役割Aと役割Bのペアで背中合わせに座り、絵カードAと絵カードBにある絵の相違点を、互いに英語で質問しあって見つけ出す。絵カードAと絵カードBは、一つの元絵をコピーしてその中のパーツを5箇所ほど変化させて貼って作る。絵カードにはダミーを含め、間違い候補を10箇所ほどナンバーで表示しておく、活動が容易になる。</p>	<p>絵の違いを見つけるために、互いに描写と質問と理解チェック表現を自発的に発する。</p> <p><u>英語を作業言語として用いる。</u></p>
9	picture reproduction	<p>生徒各自に、半完成の見取図（公園・学校のグラウンド・住宅・子供部屋など）と、その中に入れるパーツの絵（ブランコ・滑り台・シーソー・噴水など）を持たせる。パーツは単体ごとに切り離す。役割AとBのペアで背中合わせに座り、Aは自分が作った公園などの見取図を、英語でBに説明してゆく。Bは、Aの説明を聞いて、パーツの絵を自分の見取図に配置し、Aの絵を再現する。</p>	<p>相手に伝わるように工夫しながら絵を説明する。</p> <p>相手の説明を理解するために質問やあいずちや話者コントロールを駆使する。</p> <p><u>英語を作業言語として用いる。</u></p>

10	1 枚のポスターを使った Show & Tell	上記 6 の名刺交換会の名刺の内容で、A 3 サイズのポスター 1 枚を作り、それを提示しながらクラスの前に出て話す。	十分な声量で話す。 話す際に原稿を棒読みするのではなく、原稿に頼らずに聴衆に向かって語りかける。 聴衆の理解を確認しながら話す。 聞き手として、聞き返しや関連質問などにより、話し手を励ます。
----	--------------------------	---	--

英語プレゼンテーション力

英語プレゼンテーション行動力育成では、発表者に育成する行動力だけでなく、聴衆の聞く側の行動力をも考慮する必要がある。表 1 のはいいろのせるの網掛け部分の力を中学で、その続きを高校で養って大学に送り出すことを目安する。この到達基準を用いて、中学 1 年から大学まで、次のようにプレゼンテーション活動を一貫して積み上げるのである。

中学 1 年：自己紹介で、1 枚のポスターを見せながら 2 分間のプレゼンテーション。

中学 2 年：生徒 1 人ずつ世界の 1 国を担当して、その国について 1 枚のポスターを見せながら 4 分間のプレゼンテーション。

中学 3 年生：各グループで、クラス遠足プランを作成、1 枚のポスターを見せながら 5 分間で提案、その後クラスでベストプランを投票。

高校 1 年～3 年：教科書に登場する人物や事柄について、グループが分担して関連情報を調べ、4 枚のポスターを見せながら、クラスに向けて約 5～10 分間のプレゼンテーション。

大学生：自分の専攻分野のテーマについて調べ、パワーポイントでクラスに向けて 1 人 15 分間のプレゼンテーション。

こうして積み上げれば、高校の授業は生徒の英語発表により内容が高まり、大学の英語授業では学生の自主運営による all-in-English の授業が実現できよう。

図 1. プレゼンテーション能力の育成プロセス

話し手		聞き手
発表で行うこと	構想段階で工夫すること	聞き手として果たすべき役割
<ul style="list-style-type: none"> 原稿を見ずに話す (キーワードカード 1 枚のみ参照可) 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードでブレイン・マップを描く 	<ul style="list-style-type: none"> 発表者の問いかけ (Do you understand?) に Yes/No で応答する。
<ul style="list-style-type: none"> 聴衆を万遍なく見て話す 	<ul style="list-style-type: none"> 1 枚のポスターを用意し、聴衆に見せながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> わからない時、I don't understand. と言う。
<ul style="list-style-type: none"> わかるように、繰り返しながら話す 	<ul style="list-style-type: none"> クラスメートが知らない語は、絵や図を示し、既習語の文で言い換えて説明できるように準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話者コントロール発言 (Please speak louder. Please repeat. Please explain. など) を使う。
<ul style="list-style-type: none"> 重要な語は大きく、ゆっくり発音し、2 回繰り返し返して話す。Today I am going to talk about ANcient CASTles in Europe. ANcient means Old. 	<ul style="list-style-type: none"> 聴衆の理解を助ける実物 (realia) があれば用意し、見せる。 聴衆が知らないと思われる語は、英英的説明を vocabulary list で配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表者の問いかけ (Please raise your hand.) に挙手で応答する。
<ul style="list-style-type: none"> Do you understand? など、聞き手の理解をチェックし、Yes の返事がなければ、更に丁寧に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> Introduction-body-conclusion の流れで構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表者の問いかけに自発的に言葉で応答する (左記の斜体部)。
<ul style="list-style-type: none"> 聴衆に問いかけて、挙手を求める (Who likes spicy food? Please raise your hand.) 	<ul style="list-style-type: none"> First, Second, Third, 等の discourse marker を用いて話す。 	<ul style="list-style-type: none"> わからない時に interrupt して説明を求める (Excuse me, but smoking cigarettes causes <u>what</u>?)
<ul style="list-style-type: none"> 聴衆に時々質問を投げかけながら話をすすめる。 (What is the highest mountain in Japan? → Mt. Fuji is. → Yes, you're right. Now, how high is it? Anybody? → 3000 meters. → Good guess, but it's much taller....) 	<ul style="list-style-type: none"> 必要ならば、理解を助けるハンドアウトを印刷して配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解度チェック質問に自発的に回答する。
<ul style="list-style-type: none"> 発表の冒頭に理解度チェック質問を 3 問出しておき、発表の最後に聴衆に回答を求め、対話形式で正解を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ、理解度チェック質問を 3 問ほど作成しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞いた話題について、発表者に関連質問を出す。 Who, What, When, Where, Why, How, Do you think...? を活用するとよい。
<ul style="list-style-type: none"> 発表の最後に、聴衆から関連質問を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴衆からの関連質問が出にくいクラスでは、あらかじめ数人の友人に質問してくれるよう働きかけておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞いたあとに summary を書いて提出する。

英語交渉力の育成プロセス

ここでは、予期せぬ事態に臨機応変に対処したり、葛藤場面を切り抜ける行動力を養成する。対処の方針を教師が指示しないで、生徒が自ら判断して決めることが大切である。以下の活動 1～7 は中学、8～10 は高校、11 は大学と積み上げる。

	活動名	内容
1	こんな時どうするか?	日常出会いそうな、困った場面（無理な依頼や思わぬ失敗など）や予想外の展開（人違いなど）の英文描写を読み（聞き）、それへの対応を数通りの候補の中から選ぶ。
2	こんな時どう言うか?	日常ありうるような、困った場面や予想外の事態の英文描写を読み（聞き）、その際にどうやって対応するか、次の一言を創作する。
3	教科書シナリオから予想外へ	検定教科書に出てくる会話場面をベースに、教科書のように順調に話しが進まず、意外な展開をたどった場合にどう対処するか、教科書シナリオを改作する。
4	自分への誤解を正す	相手から自分への誤解発言に対して、どうその誤解を正すか、次の一言を創作する。
5	もめ事 Before and After	自分が日常経験した、言葉の上での摩擦をスキットにし、クラスで演じてみる。聴衆からのフィードバックを参考にして、「どうすればもっとよく対処できたか」の観点で、スキットの改良版を作って演じる。
6	悩み相談の手紙を書こう	友達関係、勉強、部活動、性格、将来などについて、空想上の人物になって悩み相談の手紙を書いて、クラスに投げかけてみる。
7	悩み相談に回答しよう	クラスメートの書いた悩み相談数本の中から、自分が書きやすい相談を選び、それにアドバイスを書いてみる。同じ悩みに回答してきた者同士で集まり、書いてきたアドバイスを交換して交流する。
8	What do you think about this?	最近話題になっている事柄（事件、映画、本、現象）で、他の人がどう思っているのか知りたい事柄について、問いかけの手紙を書いてクラスに紹介する。
9	What I think about it.	上記活動 8 で出された問いかけ数本の中から、自分が応えやすい問いかけを選び、それに自分の見解を書いてみる。同じ問いかけに回答してきた者同士で集まり、書いてきた見解を交換して交流する
10	こんな時どうするかⅡ	日常出会いそうな、困った場面（無理な依頼や思わぬ失敗など）や予想外の展開（人違いなど）の英文描写を読み（聞き）、それへの対応を創作する。
11	Strategic Interaction	ある場面で（例えばデパートの売り場）、役割 A と役割 B が、それぞれ自分が置かれた状況シナリオだけを教えられ、相手の状況シナリオは教えられずに、妥協点に達するために交渉する。相手の意向をさぐり、こちらの意向を相手にわからせるように言葉で交渉し、双方満足のいく一致点を見つけ出す。 <u>シナリオ例</u> A: あなたは昨日デパートの電気製品売場(electrical appliance shop)でトースターを買いました。ところが、家で使おうとしたら、壊れていてパンが焼けません。あなたは、今仕事の昼休みを利用して、そのトースターを持って、デパートの売場へ行くところです。 B: あなたはデパートの電気製品売場(electrical appliance shop)の店員(salesclerk)です。あなたは今はパート扱い(part-timer)ですが、正社員(full-timer)になりたいと思っています。そのために、できるだけ多くの商品売って、客から良い評判を得たいと思っています。今、一人の客が入ってきました。腕の見せ所ですよ。

英語ディスカッション力の育成プロセス

	活動名	内容
1	すばやく自説を正当化する根拠を述べる	“I like poor life better than rich life.” “I love cockroaches for my pet.” など、わざと常識に反する命題を与え、それに対して、すばやくその根拠を述べる。
2	What Is Your Excuse?	普段「いけない」とされている事を想定し、それをどうしてもやらなければならない場合を仮定し、もっともな口実を考える。
3	教科書で学んだ英文に対して、関連質問を出しあう。	各ユニットの最後に、読んだ英文の内容に関して、生徒が関連質問を出し合う。また、こうして出された関連質問に、他の生徒が考えて答を返す。「どうしてそう言えるのか」「どこから取った情報なのか」「触れられていない情報はないか」など。
4	教科書で学んだ英文が主張している見解に反論してみる。	教科書の英文が主張している考えに対して、生徒が反論を考える。あるいは、別の立場に立った主張を考えてみる。
5	教科書の英文の構成 (organization) を批判的に検討してみる。	Introduction-Discussion-Conclusion の構成の出来、Topic Sentence と Support の出来、段落間の論理構成の出来などについて、読者の立場から批判的に検討し、問題があれば改善案を提案する。
6	Chain Letter	命題 (例: Every student should join a club activity.) について、一定時間内に座席の前の生徒から後ろへと紙を回して紙上ディベートする。命題は列の人数分用意し、全生徒がどれかの命題について同時進行で論述する。 <u>1st writer:</u> 賛成 or 反対の立場を選んで論述し、5分後にはその紙を後ろの生徒に渡す。 <u>2nd writer:</u> 1st writer に「反対」で論述し、7分後にその紙を更に後ろの生徒に渡す。 <u>3rd writer:</u> 「1st writer に賛成・2nd writer に反対」で論述し、7分後に紙を更に後ろの生徒に渡す。 <u>4th writer:</u> 「1st writer に賛成・2nd writer に反対」で論述し、7分後に終了、紙を 1st writer に戻す。 <u>1st writer:</u> 返ってきた紙上ディベートを読み、「特に賛同する部分」「反論したい部分」に色マーカーで線を引き、感想を書いて提出。
7	Micro Debate	ある命題 (例: Summer is the best season to visit Osaka.) について、3人1組で、それぞれが「賛成派」「反対派」「ジャッジ」の役割を入れ替えて3ラウンド行う。時間配分は下記内訳で、合計 10 分。 1. 「賛成派」の constructive speech: 1.5 分 2. 「反対派」の rebuttal: 1 分 3. 「反対派」の constructive speech: 1.5 分 4. 「賛成派」の rebuttal: 1 分 5. free debate: 2 分 6. judging and reflection (ジャッジが、どちらの論述がより説得力が有ったかを判定し、理由を述べる。) 3 分
8	問題投書への反論書き	「この投書はとんでもないことを言っている、ぜひ反論したい」と思うような新聞投書(The Japan Times など)を数点取り上げ、その中から自分が最も反論したいものを選んで、反論の投書を書く。書いたら、同じ元投書を選んだ生徒同士が集まって、互いの投書を交換し鑑賞する。

引用文献

三浦孝・中嶋洋一・池岡慎（2006）『ヒューマンな英語授業がしたい』研究社

資料編：日本の教室で機能し、使い勝手の良いコミュニケーション活動の例

英語アクティビティ運営力養成の活動例

慣れない英語で危険を冒して話すことを可能にするには、教室に受容的な雰囲気を作ることが必要である。また、ペアやグループでタスクを達成するためには、相互に協力する信頼関係が必要である。以下の活動は、生徒の英語力を伸ばしながら、同時に教室にラポート（安心して発言できる雰囲気と協力関係）を築き、間違いを恐れずに積極的に発話する力を育てる活動である。

(1) 言い換え作文(guided composition)

指導手順：

* 基礎的活動

本時に習った文の一部を空欄にして、そこに生徒が自分のメッセージを盛り込む活動である。簡便で安全な自己開示を行うことができ、また相手の思いを受け止めて返す訓練にもなり、ラポートを養う。

例) 例文中の () 内は、生徒が作成する部分、それ以外は Stem の部分である。普通は 1 回に 1 文を行う。

My name is _____.

My best friend is _____.

I am very happy when _____.

I like those people who _____.

I feel proud of myself when _____.

作文したらペアを組み、記入したものを基に互いに相手に伝え合う。聞き手は、I を you に変え共感を込めて相手の発言を繰り返す。(カウンセリング手法)

* 発展的活動

難易度を上げることにより、発言内容の幅を広げる。

【高校生以上が対象】

1. I like those people who (are kind to other people).
2. I feel happiest when (I am sleeping).
3. People say I' m a lazy student, but (I try to do my best every day).
4. I want to be (a doctor), because (I want to help people who suffer from bad diseases).

必要な下地：いきなり自己表現活動を教室に導入しようとしても、発言する際の恐怖感や教室の雰囲気等で、必ずしも上手くいかない場合が多い。口頭での発表を恐れるクラスでは、はじめのうち紙に書かせて回収し、教師が暖かくコメントして返すことを通じて、表現する楽しさを実感させ、徐々に口頭にもってゆくとよい。

(2) 言い換え会話(guided conversation)

教科書の会話文 3～4 ターンを基にして、その一部を生徒が自分に合わせて改作して対話する。ペアを組んでまずは原稿をつくり、対話してみる。メモを見ないで対話ができるようになったら、教師を呼んで達成確認を受ける。ペアで協力して自分たちを表現する基礎を養う。

例 1：教科書本文 “Spring Vacation”

【配布するワークシート】

A: How was your spring vacation?

B: My spring vacation? It was wonderful! I went to London and enjoyed sightseeing.
How about you?

A: It was terrible. I had a bike accident and broke my leg.

B: Oh, that's too bad.

(3) 相性テスト

下記のような用紙を配り、生徒が各自、[] に自分の大好きなものを英語で書き込む。

1. I like	[]	(食べ物)
2. I like	[]	(飲物)
3. I like	[]	(歌手)
4. I like	[]	(スポーツ)
5. I like	[]	(その他なんでも)

次にそれを、パートナーに向かって話し、相手は同じ好みならば “I do, too.”、好みがあれば “No, I don't.” と言う。双方の好みと同じなら [] に○を、違ったら [] に×を記入する。4人のパートナーに尋ね、自分と好み似ている人をさがす。この活動は、生徒が自分の好みを安心して表現する雰囲気をつくる。

(4) 一斉インタビュー

生徒 1 人が 1 つの質問を与えられ、それを暗記し、「始め」の合図で教室中を歩き回って他の生徒に自分の質問を尋ねてゆく活動である。同時進行で何十人もが発言し、人に聞かれる心配がないため、自信のない生徒でも安心して英語を使うことができる。また、お互いの経験や考えを英語で話し合うラポートを養うことができる。

なお、実施する際には次の点に注意すること：

- 1) インタビュー質問を書いた紙を持ち歩いてはいけない。質問は必ず暗記する。(そうしないと、紙を読み上げて、アイコンタクトが取れない。)
- 2) インタビューは Excuse me. で始め、Nice talking with you. で終わること。
- 3) 全員が立ち上がって行くこと。(そうしないと生徒が移動しなくなる。)
- 4) 時間を限り (10～15 分)、尋ねる人数のノルマを課すこと。
- 5) 課された人数に尋ねたら、着席すること。(こうすると、終了状況がよくわかる。)

下記は、現在完了形の経験用法を用いたインタビューの礼である。Find Someone Who（一斉インタビュー）

- (1) Have you ever met a famous person?
- (2) Have you ever climbed a very high mountain?
- (3) Have you ever got a 1st prize?
- (4) Have you ever seen a beautiful sunset?
- (5) Have you ever had a date?
- (6) Have you ever made your teacher angry?
- (7) Have you ever helped someone on the street?
- (8) Have you ever cooked a meal for your parent?
- (9) Have you ever stayed up all night?

あらかじめ宿題として、生徒に 1 人 1 問ずつ作成させておくとよい。

*ここから、インタビューレポートへとつなげてよい。

レポート例：

Hello. My name is Risa Iwata. My question was “Have you ever met a famous person?” I asked this question to eight people. Three people answered yes. One of them met Asashoryu in Narita Airport. Another met Seiko Matsuda on a Shinkansen! And the other met Kobukuro at their concert in the Tokyo Dome. I was surprised that so three people met famous persons. That’s all. Thank you.

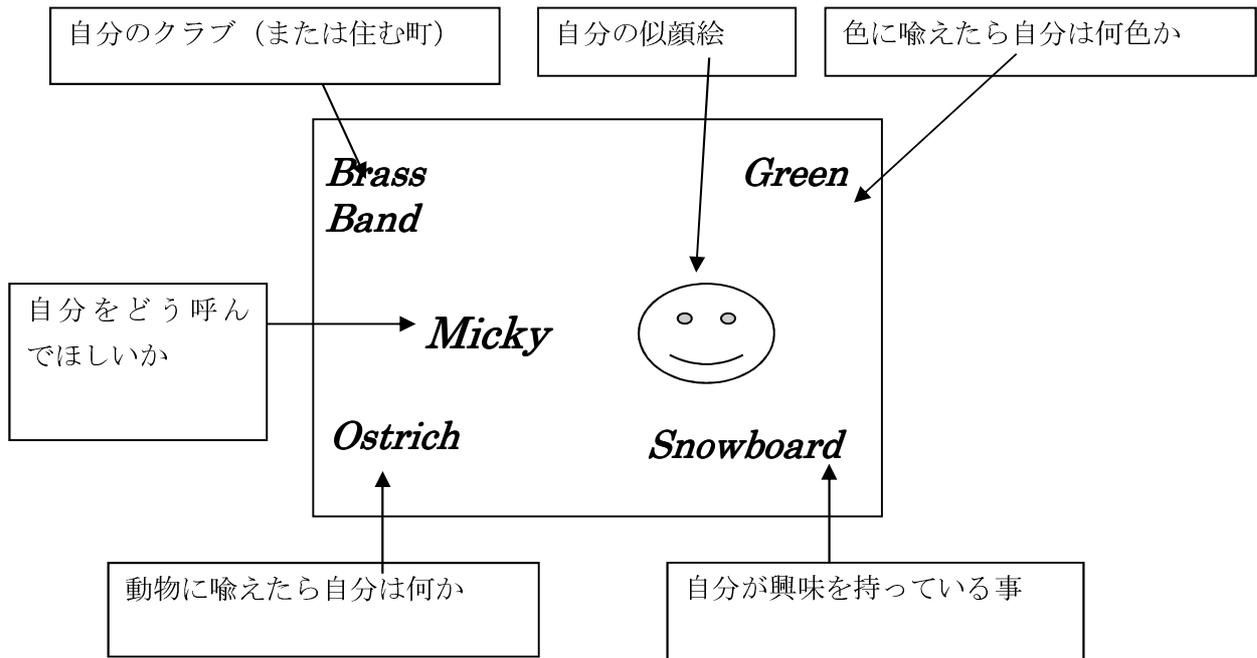
(5) 名刺交換会

生徒が下記のような形式で名刺を作成して集まり、それをクラスメートと交換しながら自分を語り他者を理解する活動である。名刺はあらかじめ予告して、授業に 10 部程度持参させる。当日は一斉に教室を歩き回り、まだあまり話したことのない人を見つけ、名刺交換を行う。目標人数を決め（8 人程度）、目標を達成したら着席する。

新学期が始まって間もない 4～5 月に行うと、これまで親交のない相手にも気軽に声をかけるきっかけになって、レポート作りに良い。以下に、初回用と 2 回目用の名刺デザインを紹介する。

未知の人とのコミュニケーションを切り開くイニシアティブを育て、また自分の話を人に理解してもらえる喜びを体験できる。

<初回用名刺: This is Me>



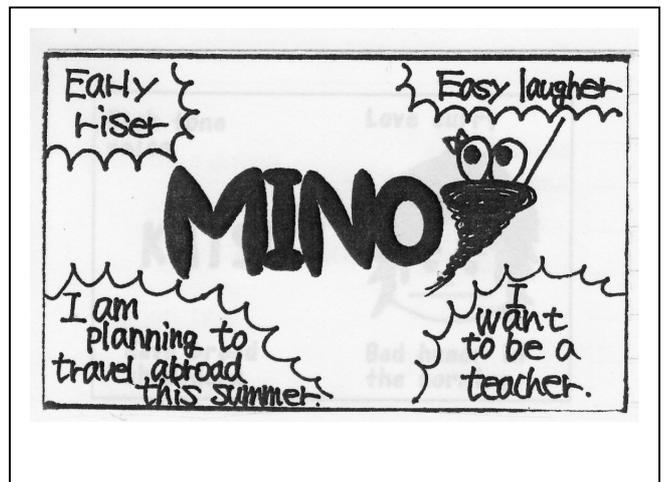
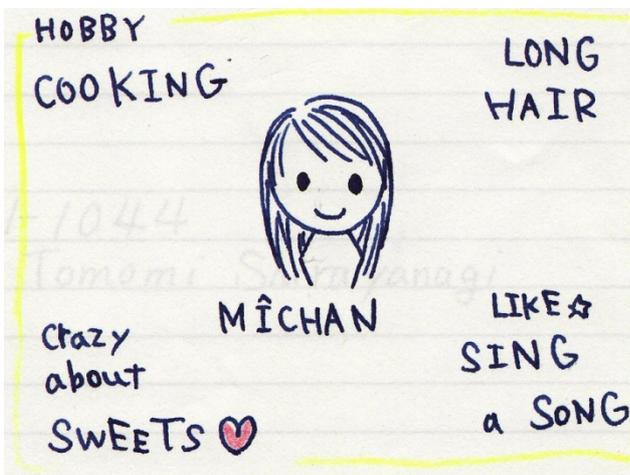
紹介の例

Hi! Nice to meet you. I am Micky. I am a member of the Brass Band Club. I play the trombone. My club is very busy and hard. My color is green, because I am always quiet and peaceful. My animal is ostrich. Do you know ostrich? Ostrich is the biggest bird with a long neck and runs very fast. I am like an ostrich because I can run fast. I am interested in snow boarding. (友達が知らないと思われる語は、下線部のように言い換えて伝える。)

事後に、集めた名刺をレポート用紙に貼り、英語でメモを書いて提出させるとよい。

<2回目用名刺: How I am Unique>

今回の主眼は、どんな小さなことでもよいから、自分のユニークな点を4つ紹介すること。名刺の4隅に自分のユニークな点を書く。似顔絵と、呼んでもらいたい名は前回と同じ。



紹介発話の例

(1) Hi! I am Michan. I am unique because my hobby is cooking. Also I have very long hair. I am also unique because I am crazy about sweets. I like singing a song.

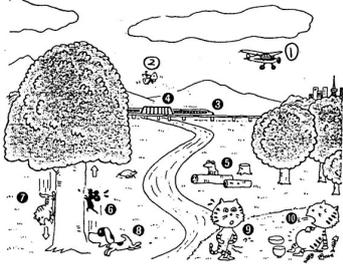
(2) Hi! Please call me Mino. I am unique because I am an early riser. I get up at six. Also, I am an easy laugher. I mean, you can make me laugh very easily. I love laughing. I have a dream: I want to be a teacher in the future. I am planning to travel abroad this summer, maybe in China or Korea.

事後に、集めた名刺をレポート用紙に貼り、英語でメモを書いて提出させるとよい。

(6) Picture Differences

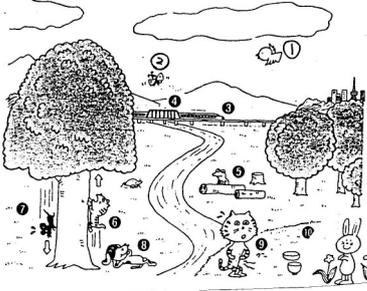
ペアで、それぞれ数箇所が異なる絵を持ち、互いに質問してその違いを発見する活動である。下記のようなA、Bの絵を使う。英語で質問し、comprehension check を返し、返事をする行動を開発できる。また、英語でタスクを達成することの面白さが味わえる。

A



No.	A	B
1	a plane	

B



No.	A	B
6		a cat/ climbing up

(7) Picture Reproduction

家や公園、学校、遊園地の見取り図とパーツ集を使って行う。ペアで背中合わせに座り、一方が作ったパーツの配列を、言葉で相手に話して、相手に同じ配列を再現させる活動である。この作業では、相手の図を正しく再現するために、何度も相手に聞き返しをすることが必要となる。説明と聞き返しの繰り返しで、コミュニケーションの協力を養い、またタスク達成の喜びを体感させる活動である。

今回の活動 : Make your own house

ペアのうち、一方は引越し業者、もう一方は引越し依頼主です。今日は引越し依頼主は他に用事があるため、現場に来られません。依頼主は引越し業者に電話で、荷物をどの部屋のどこに置くかを指示します。ただし、指示できるのは 10 個の荷物の置き場所とします。全部終わったら、二人の配置図を見比べ、ただしく配置できたかどうか確かめなさい。

会話例

(Client) Please put the table in the living room.

(Serviceman) Put the table in the living room. Okay. What's next?

(Client) Please put the bicycle in the living room.

(Serviceman) In the living room??? Are you sure?

英語交渉力養成の活動例

(8) Strategic Interaction 初級

こんな時あなたならどうするか？(二宮：1996)

1) 前時に、次のような場面を与え、とっさの一言の作成を宿題として課しておく。

What is Your Excuse?

次のようにお母さんから言われました。お母さんの感情を刺激しないようにどう切り抜けますか？

You are watching TV again. Have you finished your homework?

2) 授業で、生徒の書いてきたシナリオを集め、教師が目を通して手直しし、シナリオ一覧にして配布する。そして、下記のような読解教材として読む時間をとり、いいと思うベスト3を選ぶタスクを与える。ここで出てきた作品一覧を生徒にフィードバックし、それをもとにして次の「名作を選ぶ」タスクにつなげている点は見事である。このようにすれば、生徒の間でオリジナルな対処法の交流ができ、より豊かなバラエティの中から自分にあった対処法を選択することができる。→次頁へ

次の英文はみんなの作品です。いいと思うベスト3を選びましょう。

What is Your Excuse?

—Of course! Do you think I tell a lie? You must believe me. You may strike me if it was a lie.

—No, I haven't. But please listen to my excuse. Homework isn't important to my life. I don't like to study.
I want to watch TV. Don't take my free time.

—I can do it in a minute. Today's homework is as easy as no homework. Maybe when you ask me again,
I'll have already done it.

—Today you are beautiful, Mom.

—It's my relaxing time. If I don't relax at all, I can't do it well.

—I don't have any homework today. I have already studied hard at school. so I am very tired. Don't say
anything to me, please.

英語交渉力養成の活動例

(9) 生徒の悩み相談にアドバイスを書く(三浦ほか、2006)

(例) 人生相談の手紙のサンプル(中学3年生用)

Dear Classmates,
All of my friends have a date to the prom, and I don't. I can't go with my girlfriends because they're all going with guys. I feel like the biggest loser. I almost don't even want to go to school. Please help!
Sincerely Yours,
No Date, 16, NY ('Ask Juli' in Teen. March, 2001.
Beth Press, U.S.A., p.39)

用紙の上半分に相談の文を書く。全体で 50 語以内とする。

相談内容は、新聞・雑誌等から取ってもよい。あるいは誰かの悩みを取り上げたり、自分で創作して書いてもよい。

相談の最後に、相談者の名前(ニックネームでよい)を書く。

(ア) 次回授業までに、4種類の相談のうちどれか1つに、資料2のような様式でアドバイスを記入してくることを宿題として課す。(アとイで所要時間10分)

(イ) 次回授業で、応えた悩み別に集まり、回答を回し読みしてシェアする。「なるほど!」マークと「can't understand」マークを記入する。

(ウ) 相談者に返す→相談者が読み終わったら教師に提出→教師が添削して返却

英語ディスカッション力養成の活動例

(10) 生徒が教材読後に関連質問を作り、クラスメートにインタビューする方法

(reading→内容に触発された疑問をインタビュー→インタビュー結果をレポート)

授業で1つの教材を読み終えた時に、その内容に触発されて生徒が感じた疑問を、英語のインタビュー質問にして、次の授業でクラスメート同士でインタビューしあい、その結果を英文レポートに各活動である。下記は、筆者が実際に大学3年生のライティングのクラスで行った例である。使用した教材は Sakamoto & Sakamoto の *Polite Fictions in Collision*, page 16 である。

(ア)教科書の原文

“Help yourself” (“tsumetai” and “cold”)

A college professor in Japan told me that the most frequent complaint of Japanese students who took part in his college’s home-stay program in America, was that their American host family was “tsumetai”, or cold. When asked to explain, the students said that their host parents would tell them that they would cook and serve their dinners, but that everyone in the family fixed their own breakfasts and snacks. Then they would point to the refrigerator and say, “Help yourself.” This invariably shocked the Japanese students. “How could I possibly help myself to food from their refrigerator? And even worse, how could they say that to me on the very first day!”

Interestingly, a Japanese-language teacher at a high school in Hawaii told the same professor that the most frequent complaint of American students who took part in her school’s home-stay program in Japan, was that their Japanese host family was “cold and unfriendly.” When asked to explain, the students said that the host mother would always insist on serving them everything. “It made me feel very uncomfortable. I couldn’t even get myself a glass of juice from the refrigerator. And this went on to the very last day!”

(イ) 原文を読んで学生が感じた疑問を1人1問持ちより、クラス内で一斉に教室を歩き回り、8人以上に相互にインタビュー活動をする。事後に、自分のインタビューの結果をレポートに書いて提出する。



Interview Report

Written by M. O

1. Interview Question:

- (1) If you are a home-stay student, which would you prefer, to be treated as a family member or a special guest?
- (2) If your host family always say, “Help yourself” to you, how would you feel?
- (3) How do you want to treat your foreign guest when you take on a home-stay student in your family?

2. Interview Results:

I asked these questions to 5 classmates, and got the following answers.

Respond-ents	Sex	(1)want to be treated as a	(2)reaction to “Help yourself”	(3)want to treat my guest as a
Miyuki	F	special guest	“tsumetai”	special guest
Yuki	F	family	natural	special guest
Sayuri	F	special guest	not kind	special guest
Yumi	F	family	no problem	special guest
Aya	F	family	natural	special guest

3. Discussion

I asked these questions for two reasons. First, I wanted to know how Japanese students would feel if their host family said “Help yourself” (Sakamoto & Sakamoto, p14). Secondly, I have been interested in how Japanese students treat “a home-stay student” .

In the first and second questions, I found that not all Japanese students feel that their host family is “tsumetai” if their host family say “Help yourself” . Three out of five students answered “No problem” or “It is natural” because they want to be treated as a family member. On the other hand, two students who want to be treated as a special guest answered “They are tsumetai” or “They are not kind.” Through this interview, I found out that how Japanese students interpret “Help yourself” depends on how they want to be treated by their host family.

In the third question, all my respondents answered that they will treat their home-stay student as a special guest. Even the students who answered they want to be treated as family members will give special treatment to their home-stay students. I think it is interesting that Japanese students have different thought about “a home-stay student” when they are home-stay students and when they are host family.

Although I asked these questions to only five students this time, I was surprised that some students want to be treated as a family member and do not interpret “Help yourself” as “tsumetai” . Next time, I would like to ask these questions to many students and compare their answers.

以上の活動の結果としてこの学生は、テキストに書かれていた内容の誤りを指摘することができた。

英語ディスカッション力養成の活動例

(11) チェーン・レター

これは中嶋洋一氏の考案した活動で、ある命題（例えば、“We don’ t need school lunch.”）について、賛成意見・反対意見を、教室の前列の生徒から順送りに書き足してゆく、紙上ディベートである。本書では、筆者のアレンジを加えた方法を紹介する。

教室の座席の、縦列の人数と同じ数の命題を用意する。たとえば机が縦に 6 列の教室ならば下記のように 6 つ命題を用意する。

- i) Our school should open a hamburger shop on the campus.
- ii) A husband and a wife should have different surnames.
- iii) Japan is a good country to live in.
- iv) School lunch should be abolished.
- v) We don’ t need school uniforms.
- vi) Every student should join a club activity.

意見の記入用に、A 3 か B 4 の紙を配布し、1 列目の生徒には命題 i)、2 列目には ii) というふうに命

題を割り当てる。生徒は命題について自分の意見を書き、時間が来たら書いた紙を後ろの生徒にパスして、次々と別の命題について論述してゆく。

- 1) 1st writer: 割り当てられた命題について、賛成 or 反対の立場を選んで論述し、5分後にはその紙を後ろの生徒に渡す。
- 2) 2nd writer: 受け取った紙には、1st writer の意見が書かれているので、それに「反対」の立場で論述し、7分後にその紙を更に後ろの生徒に渡す。
- 3) 3rd writer: 受け取った紙には、2nd writer までの意見が書かれているので、「1st writer に賛成・2nd writer に反対」の立場で論述し、7分後に紙を更に後ろの生徒に渡す。
- 4) 4th writer: 受け取った紙には、3rd writer までの意見が書かれているので、「1st & 3rd writers に反対・2nd writer に賛成」の立場で論述し、7分後に紙を更に後ろの生徒に渡す。
- 5) 5th writer: 受け取った紙には、4th writer までの意見が書かれているので、「1st & 3rd writers に賛成、2nd & 4th writers に反対」の立場で論述し、終了、紙を 1st writer に戻す。
- 6) 1st writer: 返ってきた紙上ディベートを読み、「特に賛同する部分」「反論したい部分」に色マーカーで線を引き、感想を書いて提出。

詳細は三浦・中嶋・池岡（2006）pp. 141-145 を参照されたい。

引用文献リスト：

- 二宮秀夫（1996）「生徒の主体的取り組みを促すコミュニケーション活動の工夫」 大下邦幸編著、
『コミュニケーション能力を高める英語授業 理論と実践』、東京書籍、pp. 154-156
三浦・中嶋・池岡（2006）『ヒューマンな英語授業がしたい』研究社

Sakamoto, N. and S. Sakamoto. (2004). *Polite Fictions in Collision: Why Japanese and Americans seem rude to each other*. Kinseido.